

令和 4 年度の屋久島西部地域におけるヤクシカ計画捕獲結果
(2023 年 1 月末現在)

環境省九州地方環境事務所

(1) 目的

- ・西部地域瀬切地区の植生回復を目的に、囲い罠による計画捕獲を実施。
- ・5 頭/km 以下を目安に、多頭捕獲を目指す。

(2) 誘引捕獲期間

令和 4 年 12 月 給餌・捕獲実施：12/5～12/21

5 年 1 月 給餌・捕獲実施：1/5～1/19

(2 月 給餌・捕獲実施 (2 週間の給餌中に 1～2 回))

(3) 実施場所

西部地域瀬切地区の瀬切大橋西側の道下及び道上に設置 (令和 2 年度より設置していた囲い罠①は、囲い罠②と近接しているため移設した)。

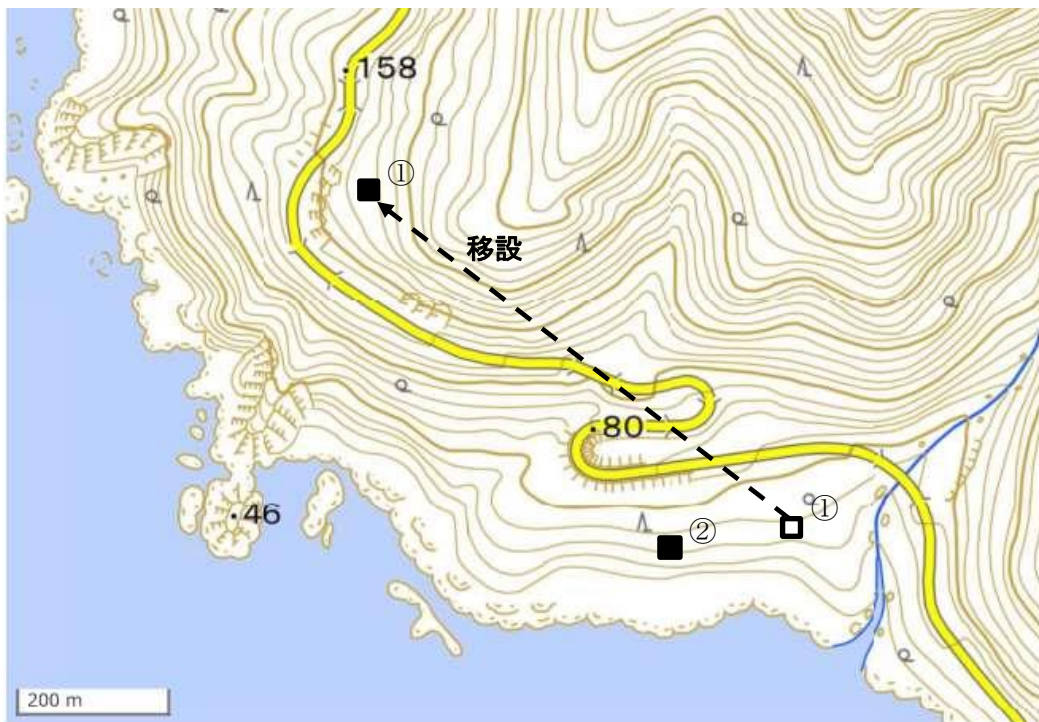


図 1 瀬切地区の囲い罠設置位置 (■は囲い罠設置位置)

(3) 捕獲方法

和歌山県果樹試験所で考案された潜り込み式ゲートを試験的に導入し捕獲を実施した。

誘引には粉碎ヘイキューブとアルファルファペレットを合計 5 kg 使用し、毎日ゲートの外と内に置いて誘引した。ゲートの外に置いた餌が完食された場合はゲートの外への設置はとりやめ、ゲートの内側に全量 5 kg の誘引餌を設置した。

ヤクシカがゲートを出入りするようになり、捕獲が可能な場合は都度捕獲を行った。

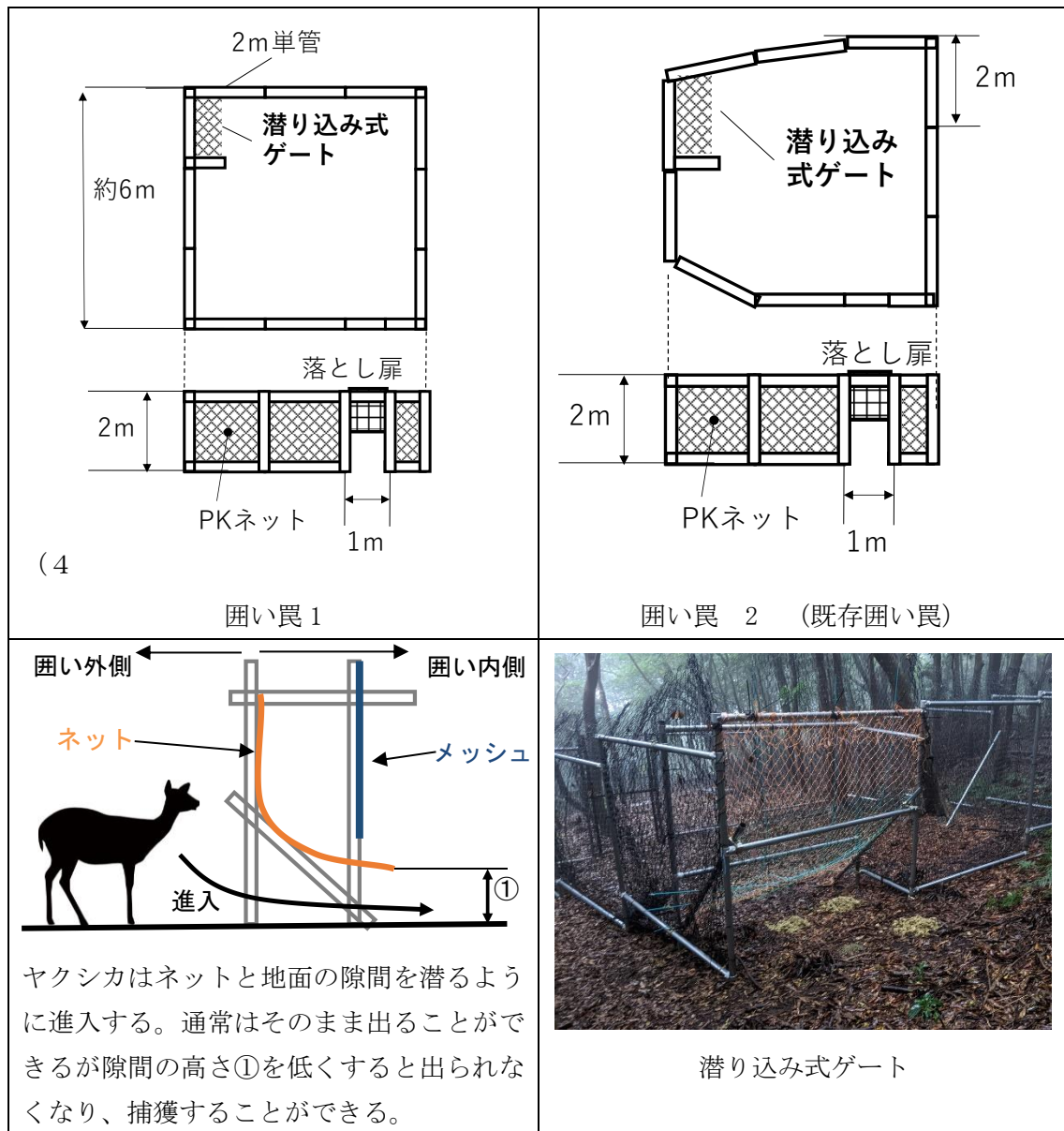


図 2 囲い罠の形状

(4) 捕獲状況

1月19日までの捕獲状況を表にまとめた(表1)。

12月と1月の合計4週間の誘引作業中に21頭のヤクシカを捕獲した。

オス7頭、メス14頭とメスの捕獲頭数が多く、捕獲したオスもほとんどが幼獣や角がほぼ生えていない若いオスであった。センサーカメラの状況から角が大きいオスが、ゲートにくぐることを躊躇する様子がみられた。

自動捕獲装置を使用した令和2年および令和3年では囲いの中に入ったオスが他の個体を追い払う様子がみられたが、潜り込み式ゲートではオスが入らず他の個体を追い払うことがないため高い頻度で多頭捕獲ができると期待される。

個体数の縮小に有効なメスを優先的に捕獲できる潜り込み式ゲートは西部地域において効率的な個体数管理の手法と考えられる。

表1 令和4年度捕獲状況(1月19日時点)

日付	囲い1		囲い2		合計
	オス	メス	オス	メス	
12/16	2	3	-	1	6
12/18	-	-	2	2	4
1/7	1	4			5
1/9	-	-	-	1	1
1/18	1	1	1	-	3
1/19	-	2	-	-	2
合計	4	10	3	4	21

表2 参考：過年度捕獲状況

年度	囲い罠1、2		合計
	オス	メス	
令和2年度	18	6	24
令和3年度	10	3	13
合計	28	9	37